



地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 概要説明資料

令和7年5月

環境省 大臣官房地域政策課 地域循環共生圏推進室



目次

1. 地域循環共生圏について
2. 本事業の目的・実施内容
3. 事業実施体制
4. 年間スケジュール及び提出物について
5. 情報発信（メルマガ・FB・Platform Clover など）

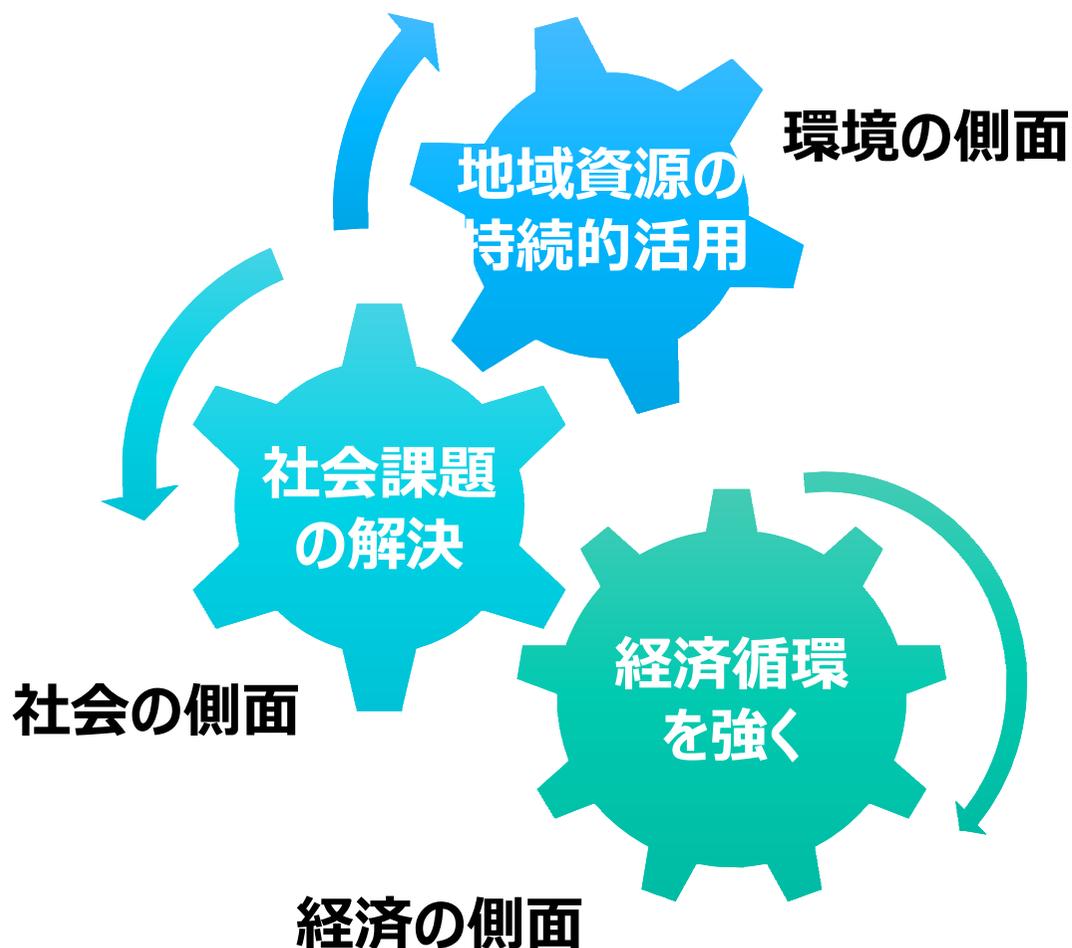


1. 地域循環共生圏について



- 地域循環共生圏（2018年、閣議決定）とは、**地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカルSDGs事業）**を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくとともに、地域の個性を活かして**地域同士が支え合うネットワークを形成**する「自立・分散型社会」を示す考え方。
- その際、私たちの暮らしが、森里川海つながりからもたらされる自然資源を含めて地上資源を主体として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提となる。
- 地域循環共生圏は、第六次環境基本計画（2024年5月閣議決定）において、同計画の中心概念である「ウェルビーイング／高い生活の質」の実現に向けた「新たな成長」の実践・実装の場として位置づけられた。

- 地域資源を持続的に活用し、環境・社会・経済を統合的に良くする事業・取組である「ローカルSDGs事業」を生むことが、地域を元気にするカギとなる。
- 多様な課題に対応する様々なローカルSDGs事業を生み出し続け、地域課題解決と地域づくりを持続的に行っている地域が“**自立した地域**”といえるのではないか。



【ローカル SDGs 事業の条件】

- ① 地域資源（人・モノ・金・情報）を持続可能な形で活用している
- ② 地域の環境・社会・経済課題の同時解決をする
- ③ 採算性が考慮され、一定の継続性が見込まれる（+α 経済循環の強化）

ローカル SDGs 事業は営利事業だけでなく、行政機関の政策に基づく各種施策、企業の CSR 活動、ボランティア活動など様々な形態の取組を含みます。

ローカルSDGs 事業を生み出し続ける「地域プラットフォーム」

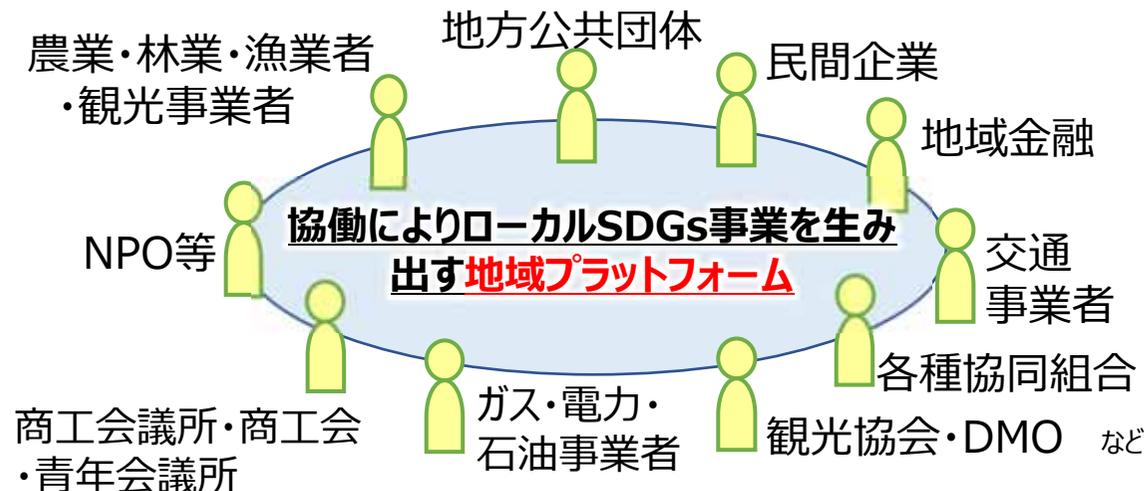
- ローカルSDGs事業を生み出すには、**地域の【主体性】と【協働】が重要**。
- ✓ 主体性・・・地域の各主体が、ワクワク感とやりがい大切にしながら、「じぶんごと」として関わる。
- ✓ 協働・・・地域内外の多様な分野の人のネットワーク・支え合いから事業が生まれる。
- ローカルSDGs事業を生み出すことを目的に、主体性のある様々な分野の人たちが協働する場・仕組みとして「**地域プラットフォーム**」をつくる**ことが必要**。

ビジョン実現に向けたローカルSDGs事業のアイデア

地域の課題や資源の棚卸し
みんなが共感できる、地域のビジョン

地域の主体が地域を良くしたいという
想いや信頼関係でつながる

事業の担い手を発掘・応援し
事業を実現



「地域循環共生圏づくり」の具体的アプローチ

- 大きくは「**地域プラットフォーム（地域PF）の構築**」と「**ローカルSDGs事業の創出**」の2つに地域として取り組むことを指す。

＜プロセス＞ 必ずしも順番は①→③ではなく、両輪で進んでいくもの

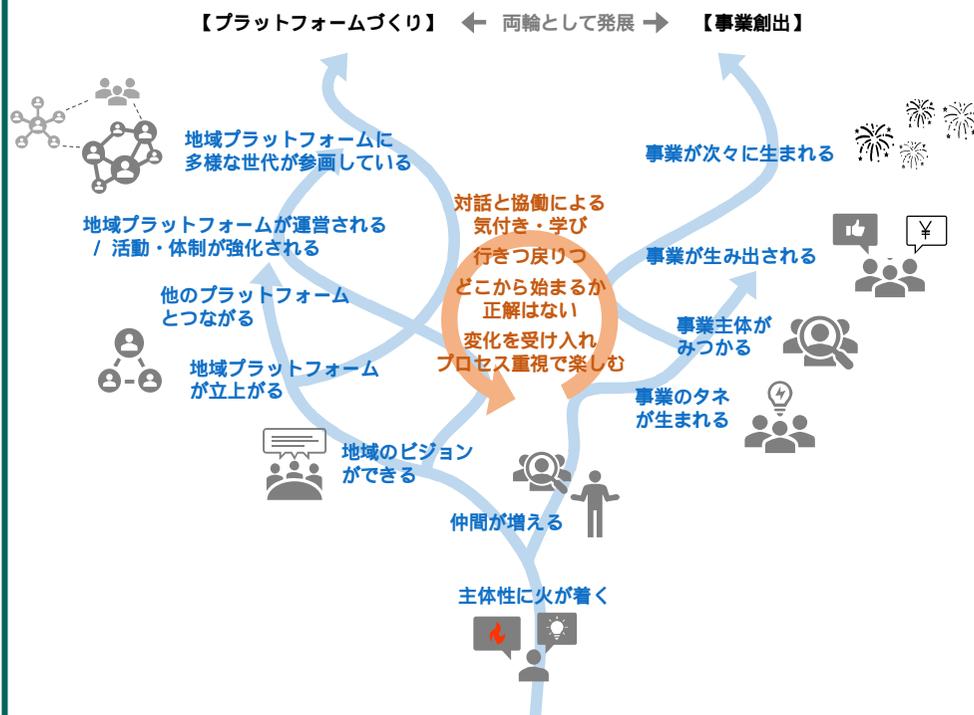
- ①地域課題と地域資源の状況を踏まえ、地域の目指すビジョンを関係者間で共有する。
- ②目指すビジョンからバックキャストで課題解決の方向性について仮説を構築。仮説を実証し、新たな事業（ローカルSDGs事業）を創出する。
- ③地域PFの目的や機能、役割を整理し、ローカルSDGs事業が生まれ続ける体制・仕組みを構築する

▶ 地域プラットフォームとは？

- ・主体性を持った地域の人々のネットワーク
- ・ローカルSDGs事業が次々に生まれ育つ場

▶ 会議体に限らない様々な形態

- ・特定組織（NPO、協議会、自治体等）と、その組織とつながる人々
- ・制度と、その制度に参加する人々（基金制度、イベント、アワード等）



地域循環共生圏づくりのプロセスのイメージ（通称：火焰型土器モデル）

出典：地域循環共生圏づくりの手引き（2024年4月）

▶ ローカルSDGs事業とは？

- ・地域資源を持続的に活用しながら、環境・社会・経済（特に地域経済）が調和した事業のこと。

▶ ローカルSDGs事業の条件

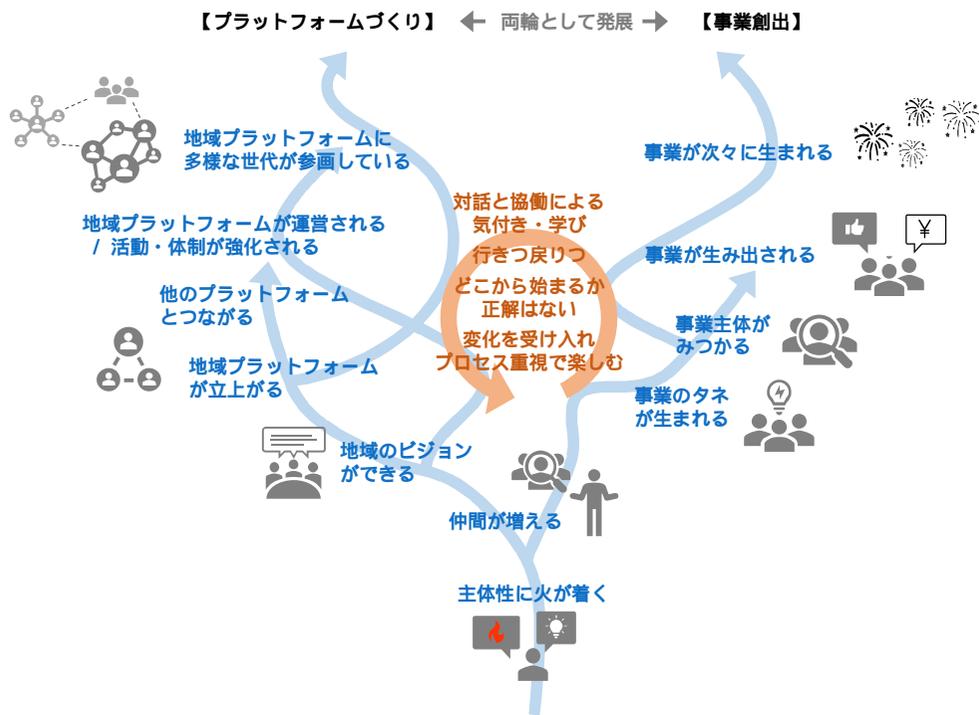
- ①地域資源（人・モノ・金・情報）を持続可能な形で活用している。
- ②地域の環境・社会・経済課題の同時解決をする。
- ③採算性が考慮され、一定の継続性が見込まれる。（+a 経済循環の強化）

※ローカルSDGs事業は営利事業だけでなく、行政機関の政策に基づく各種施策、企業のCSR活動、ボランティア活動など様々な形態の取組を含みます。



地域循環共生圏づくりの手引き

- 地域プラットフォームを構築するコアメンバー（＝本事業における活動団体）が行うアクションをまとめた「**地域循環共生圏づくりの手引き**」は必読。
- ✓ 本編 [tebiki.pdf](#) 事例編 [tebiki-jirei.pdf](#)
- 手引きはあるが…地域循環共生圏づくりにあたっては、**第三者的な視点で活動を俯瞰して見て、必要な打ち手を提案できる支援者**の存在が有効。



地域循環共生圏づくりのプロセスのイメージ（通称：火焰型土器モデル）
出典：地域循環共生圏づくりの手引き（2024年4月）

【仲間を探す】

地域の人の話を聞きに行くことで仲間をつくり、地域課題や資源を発掘する

【地域のビジョンを描く】

地域の資源や課題とビジョンの構造を明確化し、地域のコンセプトを描く



【体制を整える】

地域プラットフォームの機能や役割を整理し、事務局機能を設ける

【事業主体を探す・事業を生み出す】

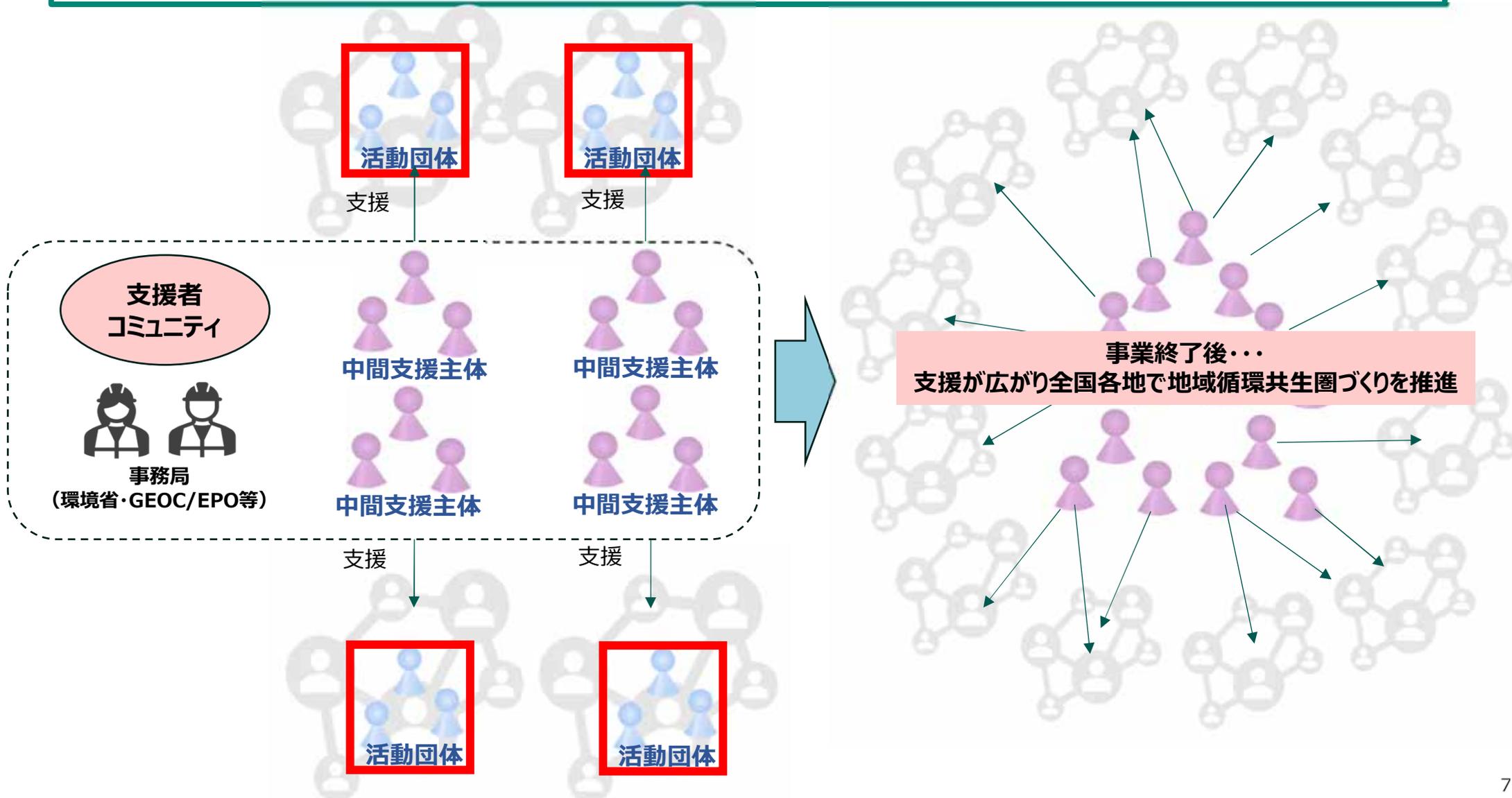
地域のビジョンを実現するためのローカルSDGs事業を考えるとともに、事業実施主体を発掘し、実施主体が事業を実施するのを応援する

地域循環共生圏づくりのアクションサイクル・モデル
出典：地域循環共生圏づくりの手引き（2024年4月）

2. 本事業の目的・実施内容

<本事業の目的>

- 各地域で「地域循環共生圏づくり」に取り組む主体（活動団体）と、それを支援できる主体（中間支援主体）を増やすこと
- 「地域循環共生圏づくり」の支援者コミュニティと支援モデルの構築⇒支援体制の強化

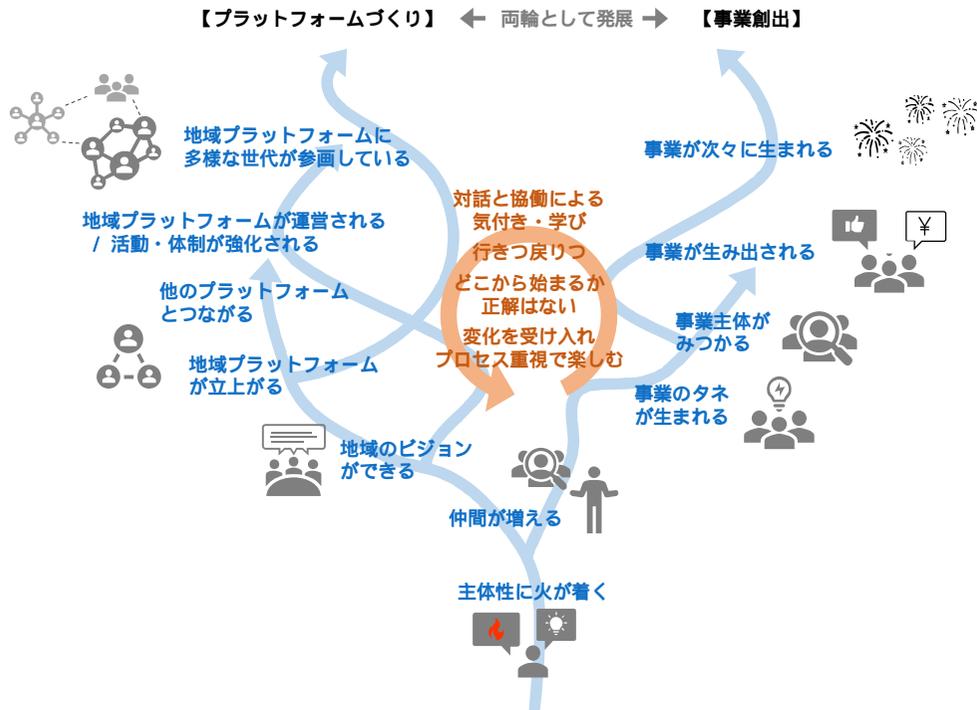


活動団体の実施内容 = 「地域循環共生圏づくり」

- 「地域プラットフォーム（地域PF）の構築」と「ローカルSDGs事業の創出」の2つに地域として取り組む。

＜プロセス＞ 必ずしも順番は①→③ではなく、両輪で進んでいくもの

- ①地域課題と地域資源の状況を踏まえ、地域の目指すビジョンを関係者間で共有する。
- ②目指すビジョンからバックキャストで課題解決の方向性について仮説を構築。仮説を実証し、新たな事業（ローカルSDGs事業）を創出する。
- ③地域PFの目的や機能、役割を整理し、ローカルSDGs事業が生まれ続ける体制・仕組みを構築する



地域循環共生圏づくりのプロセスのイメージ（通称：火焰型土器モデル）

出典：地域循環共生圏づくりの手引き（2024年4月）

【仲間を探す】

地域の人のお話を聞きに行くことで仲間をつくり、地域課題や資源を発掘する

【地域のビジョンを描く】

地域の資源や課題とビジョンの構造を明確化し、地域のコンセプトを描く



【体制を整える】

地域プラットフォームの機能や役割を整理し、事務局機能を設ける

【事業主体を探す・事業を生み出す】

地域のビジョンを実現するためのローカルSDGs事業を考えるとともに、事業実施主体を発掘し、実施主体が事業を実施するのを応援する

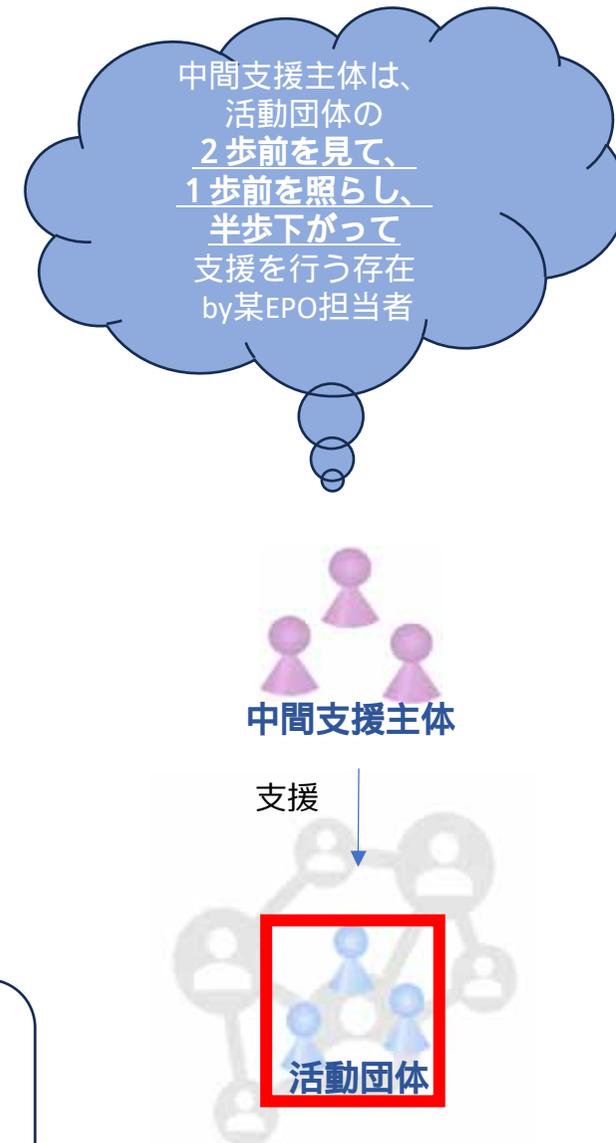
地域循環共生圏づくりのアクションサイクル・モデル

出典：地域循環共生圏づくりの手引き（2024年4月）

中間支援主体の実施内容＝「地域循環共生圏づくり」の支援

活動団体の地域循環共生圏づくりの各過程を支援。

- ✓ **活動団体が今、何に躓いているのか課題等を「見立て」、適切な「打ち手」を検討し、実際にその打ち手を実行する。**
- ✓ **支援者として、俯瞰した立場で「活動団体」の主体性を引き出し自走させる**
 - －取組が停滞した際にやり方を変えるように促したり、先を見越したステップの確認をするなど、俯瞰した立場で支援したり、足りない部分を補うなど。
 - －“中間支援主体がないと成り立たない活動”とならないよう、活動団体の主体性を引き出し自走させることが重要。
- ✓ **地域循環共生圏を地域の文脈に落とし込む**
 - －地域循環共生圏づくりとしての、地域プラットフォームの構築及びローカルSDGs事業の創出が、その地域にとってどういう意味を持つのかなど理解しやすいように翻訳し、地域で実装していけるようにインプットしていくなど



見立てと打ち手の検討にあたっては、地方事務局と月1回以上のコミュニケーションを最大限ご活用ください。
考え方や方向性等を共有し、それらに対する助言を受けて見立てと打ち手をブラッシュアップさせましょう！

中間支援主体に求められる機能例

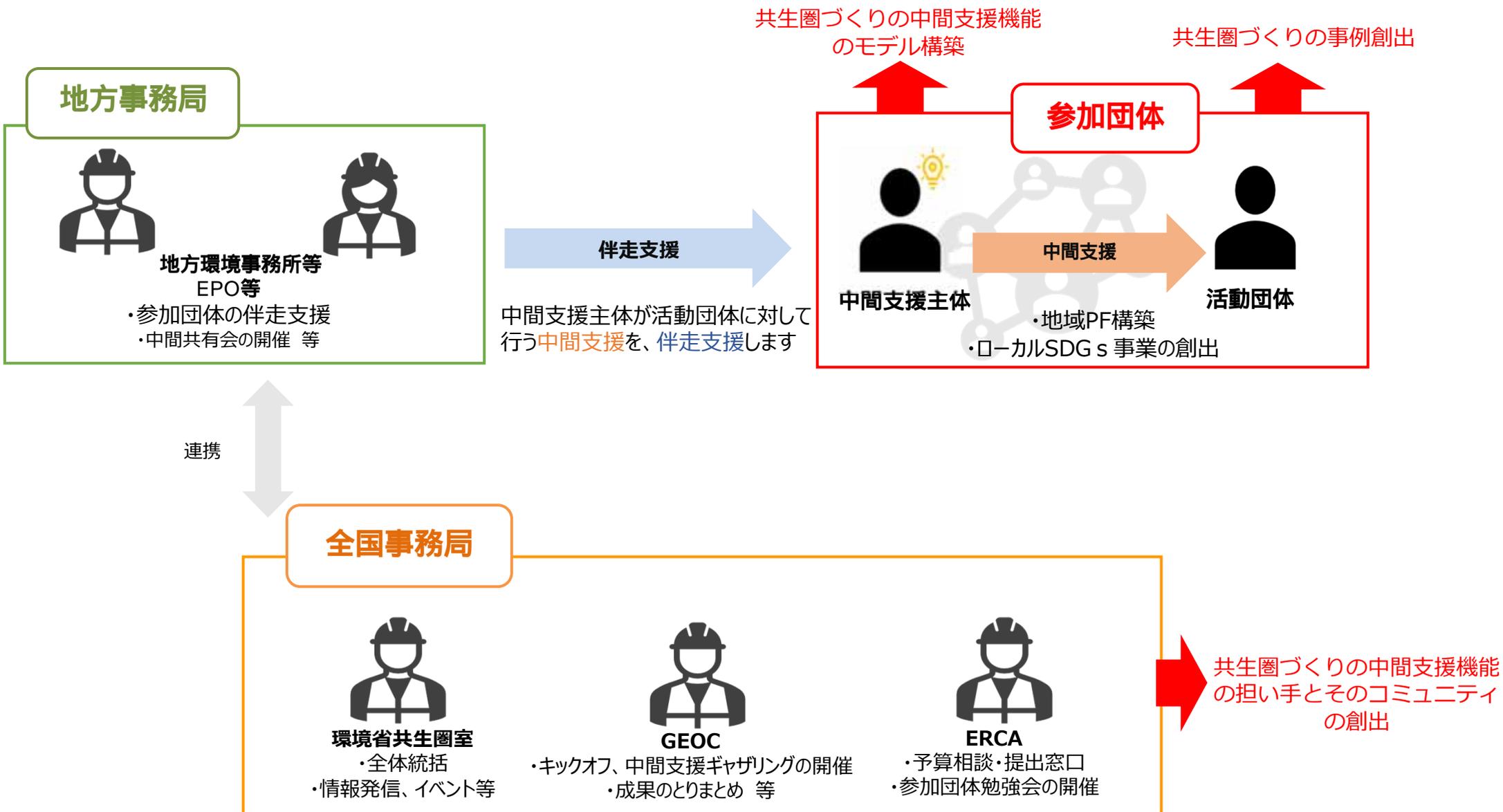
- プロセス全体を俯瞰し、変革を促すことを主として、多様な主体間での協働の取組を支援すること（チェンジェージェント機能）。

機能概要	打ち手（具体的な支援策）の例			
変革促進 取組の停滞を打破したり、円滑化するため、やり方を工夫したり、変化させる	 物事を整理する	 意味づける	 癒しとなる	 見通しをつける
プロセス支援 関係者の納得度合いや先を見越したステップの確認など	 話を聞く	 場を開く	 喝を入れる	 現在地を確認する
資源連結 情報提供・資金調達・人材紹介・他地域の事例や人材の紹介など	 新しい人を入れる	 事例を紹介する	 本音を引き出す	 拡散する
問題解決提示 取組の停滞や促進を妨げている課題に対する対策の提案など	 文字や図に落とす	 問いを立てる	 会議を進行する	 落とし所を探る

【ご参考】

- ①活動団体と中間支援主体との関係性・動き方イメージ <https://youtu.be/G1uiMssWjGY>
 （令和6年度参加団体（NIIGATA MUSIC LABORATORY/活動団体 × 社会事業化団体SHE/中間支援主体）の地域循環共生圏 フォーラム登壇動画）
- ②『環境保全からの政策協働ガイド～協働をすすめたい行政職員にむけて～』
https://www.geoc.jp/content/files/japanese/2018/02/seisakukyoudo_guide2017.pdf

3.地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の事業体制



4. 令和7年度参加団体の年間スケジュール（予定）及び提出物について

時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
参加団体 (活動団体 + 中間支援主体)	① 地方事務局と実施計画打合せ (4月中)						⑤ 中間共有会 (地方ブロックごと・9~11月の間で対面での実施)				⑥ 3/5~6 中間支援ギャザリング (全国・都内対面) ※中間支援主体のみ対象			
	② 実施計画書・予算書確定 (4~5月の間)													
	③ 請負と連携協定 (4~5月の間)		発表資料は実施計画書											
			④ 5/29 キックオフ (全国・オンライン)											
提出物	⑦ ステークホルダーミーティングの実施 (1回以上/年は必須)													
	⑧ 地方事務局との定期的なコミュニケーション (1回/月は必須)													
	⑨ 全国事務局による広報や学習機会の提供 (フォーラム等のイベント、参加団体勉強会、HP・SNS更新など)													
					【共通】 1回目 活動・支援レポート				【共通】 2回目 活動・支援レポート		【共通】 3回目 活動・支援レポート		【活動団体】 地域のコンセプトシート(マンガラ) 地域プラットフォームの体制図 事業のタネシート 【中間支援主体】 中間支援振り返りシート	
※【共通】活動団体及び中間支援主体ともに提出していただく書類														

地域循環共生圏づくりの支援ツール（提出物）について

★取組を振り返るためのツール

① 活動レポート・支援レポート

- ✓ 1年間の取組を定期的に振り返り、次のアクションを考えるためのツール。
- ✓ 年3回作成、提出が必要（提出月：8月、11月、2月）

★地域のありたい姿などの可視化・整理のためのツール

① 地域の構想を書き示したコンセプトペーパー（マンダラ）

- ✓ 地域資源、課題、地域ビジョン（地域のありたい姿）の相互関係を可視化しながら整理するツール。
仏教界の「曼荼羅（マンダラ）」は、精神世界の「つながり」や「構造」を表現しているとされています。
「つながり」と「構造」を重視するSDGsのアプローチと重なるため、環境省では地域のコンセプトシートを「マンダラ」と呼んでいます。

② 地域プラットフォームの体制図

- ✓ 地域のステークホルダーの関係性や役割、プラットフォームの機能等を可視化するためのツール。

③ 地域の構想の核となる事業の概要（事業のタネシート）

- ✓ 事業のストーリーを検討したり、磨くためのツール。事業主体（候補）や応援者への説明にも活用。

上記ツールは、年間の活動の中で作成・ブラッシュアップし続け、R7年度最終版として3月に全国事務局に提出。

その他：中間共有会の資料や継続希望調書、中間支援ギャザリングの資料等で、

取組を振り返り、成果の確認、課題（ボトルネックになっていること）の確認等の機会があります。

全国事務局による広報や学習機会の提供の詳細について

● 中間支援座談会 (オンライン)

対 象 者：今年の採択団体（主に中間支援主体）

内容(案)： ✓ 中間支援の技術的知識向上：中間支援に必要な技術や知識を深め、実務に役立つスキルを向上させる。

✓ 相互学び合い・ネットワーキング：参加者同士が意見交換し、繋がれる場

✓ 地域循環共生圏づくりにおける中間支援モデルや機能の検討・深掘り

共生圏フォーラム (都内・ハイブリッド開催)

対 象 者：広く一般に地域づくりに取り組んでいる方、興味がある方

日 程：11月18日（火）午後（13時頃開始～夕方終了予定。）

会 場：イイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区内幸町2-1-1）

内容(案)： ✓ トップセミナー ✓ 他省庁施策紹介 ✓ 取組ピッチ&展示 ✓ 交流会 など

● 共生圏セミナー (オンライン)

対 象 者：広く一般に地域づくりに取り組んでいる方、興味がある方

内容(案)： ✓ 共生圏づくり担い手育成：地域循環共生圏づくりの意義や共生圏づくりに必要な知識やスキルを学ぶ。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
座談会	6/18(水)		8/7(木)	9/3(水) 9/26(金)				
共生圏フォーラム						11/18(火)		
共生圏セミナー							第1回 第2回	第3回 第4回

5. 情報発信について (メルマガ・Facebook・Platform Clover など)

環境省ローカルSDGs

地域循環共生圏

[> 本文へ](#)
[> 新着情報](#)
[> サイトマップ](#)

しる

地域循環共生圏をしよう

まなぶ

自立した地域の
づくり方を学ぼう

つくる

地域プラットフォームを
つくる

つながる

地域循環共生圏に
取り組む仲間とつながろう

支援制度一覧

企業の皆様へ

先行事例

共生圏づくり
の引き

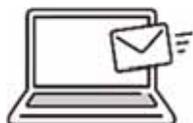
過去採択団体の
発表資料等

地域循環共生圏WEBサイト
<http://chiikijunkan.env.go.jp/>



<情報発信>

・メールマガジン



メールをお送りいただくことで登録できます。

件名「地域循環共生圏メルマガ登録希望」

宛先：sokan-keikaku@env.go.jp



・Facebook



セミナーやフォーラムなど学びの機会、仲間作りの場をご案内



環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏づくりプラットフォーム

・note



「自ら課題を解決し続ける地域」がいま必要な理由と、その考え方【“地域全体”で取り組む地域づくり vol.1】

今年から新たにnoteも始めました。



産官学民連携を促すオンラインSDGsプラットフォーム Platform Clover

活動団体、中間支援主体ともに下記をお願いしております。

- ▶ アカウント作成（個人アカウント作成後に組織アカウント作成可）
- ▶ 本事業に関する取組または、各団体の既存の取組の発信（参加団体で1回以上）



1. 検索 🔍

ユーザーはSDGsに関連するプロジェクトやアクティビティ、ニーズ・シーズを検索することが可能です。アカウント作成後はSDGsに取り組むPlatform Cloverのユーザーを検索することもできます。世の中の動向を把握したり、ご自身や所属する組織の立ち位置を再確認したり、SDGsに取り組みのきっかけづくりとしてご活用ください。

2. 発信 📩

ユーザーはSDGsに関連した中長期的なプロジェクトや日々の活動（＝アクティビティ）、ニーズやシーズを発信することが可能です。ご自身や所属する組織のPR、他のユーザーと新たなパートナーシップを構築するきっかけづくり、活動のフォローアップとレビューにご活用ください。

3. 交流やマッチング 🗣️

AIを活用して連携が期待される相手を提案いたします。その後はメッセージ機能を利用することで他のユーザーと1対1のコミュニケーションを図ることが可能です。

また、お互いに意思が合致したユーザー間で取り組みを進めるためのマッチング（パートナーシップ締結）機能も備えています。

空間や分野、属性を超えた交流やパートナーシップの構築にご活用ください。



概要動画：<https://www.youtube.com/watch?v=yJferVsu8xo>
 概要説明ページ：<https://platform-clover.net/feature/22>

掲載依頼受付中（メルマガ・Facebook・Platform Clover）

● 掲載先

地域循環共生圏メルマガ
環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏づくりプラットフォームFB ↓

● 連絡先

zenkoku_jimukyoku@env.go.jp (cc 地方事務局)



● 連絡内容

メール件名：SNS（orメルマガ）掲載希望＜団体名＞
メール内容：掲載を希望する取組の概要、引用記事や既存の投稿のURL、掲載希望時期 取組内容が分かる写真（SNSのみ）等

● 留意点

- ▷ 本事業で直接実施している取組はもちろん、参加団体の皆さんが事業外で行っている取組でも、地域循環共生圏づくりの趣旨に沿う内容であれば◎
- ▷ メルマガは第2、4週に配信予定。
- ▷ 内容の確認等に1週間程度かかる可能性があるため余裕を持ってご依頼ください。（メルマガは臨時号があるので時期が合わなければご相談いただければ◎
- ▷ Platform Cloverへの投稿リンクをFacebookに貼ることもできるので、積極的にご活用ください。
- ▷ 地域循環共生圏づくりの趣旨にそぐわない、または公式SNSでの発信が適切でないと判断した場合は、掲載をお断りする場合があります。



環境省ローカルSDGs 地域循環共生圏づくりプラットフォーム

2023年11月24日・🌐

【クラウドファンディング実施中！】周防大島高校の取組にご協力をお願いします！
環境省事業を活用して地域循環共生圏づくりに取り組んでいる「(株)YMFG ZONE プランニング」が共に活動している「山口県立周防大島高校」より、クラウドファンディングのご案内です！
周防大島町内唯一の高校である山口県立周防大島高校では、地域の大切な環境資源であるニホンアワサングの保全や、地域の魅力向上に向けてニホンアワサングを活用した地域のNPO法人などと協働して様々な取組を行っています。... さらに表示



地域循環共生圏づくりを通して 地域で起きている変化

一部の取組のみ紹介

1人で始めた活動だったが、
一緒に取り組む仲間が増えた

心理的安全性が保たれた場が
つくられ、そこから新しい事業が
生まれるようになった

地域資源を活用した商品
(杉ハーブティー)の開発・販売

「唐津市 ネイチャーポジティブ宣言」
の実現(市の政策との連動)

活動団体と中間支援の関係性が構築され、
共生圏づくりに向けた相談・壁打ち
できるようになった

漠然とした地域のありたい姿
について、対話を通して言語化
した

大学が地域で果たす役割について
再認識することができた

既存のプラットフォームに地域循環
共生圏の考え方を浸透させた

既存プロジェクトをベースにした活動
を、俯瞰した視点で整理したことで、
取組の幅(視野)が広がった

今後、各地域で実践している地域循環
共生圏づくりとその支援(中間支援)
による、地域の変化について取りまと
めを進めていく予定です。